



Eiちゃん

▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、検査情報月報を発行しています。



2024年11月発行

横浜市梅毒届出状況(2024年1月～6月)

▶ 梅毒は、梅毒トレポネーマという細菌による、主に性的接触により伝播する性感染症です。感染すると全身に様々な症状を引き起こすため、適切な抗菌薬治療が必要です。母体が梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児にも感染し、流産、死産、先天梅毒などを起こし得ます。市内の梅毒の届出は2011年以降増加し、2023年は過去最高の届出数となりました。2024年以降も報告数が増加しているため、2024年1月～6月の動向をまとめました。

主な結果 ▶ 梅毒患者数男女別推移では、2024年1月～6月の期間に男性97件(59.9%)、女性65件(40.1%)、合計162件の報告がありました。**昨年の同時期と比較して1.22倍の報告件数**でした。

▶ 男女別年齢区分別報告数では、20～50歳代の報告が多く、**男性は20～50歳代、女性は20～30歳代の報告が多くなっています。**

▶ 届出時の病型は、全体では早期顕症梅毒(I期)が多く、男女別割合で見ると、**男性は早期顕症梅毒(I期)、女性は早期顕症梅毒(II期)の割合が多くなっています。**また、**先天梅毒の報告が1件**ありました。

横浜市衛生研究所WEBページ情報(令和6年10月)

▶ 衛生研究所は保健所と連携しながら、科学的・技術的支援機関として、市民生活に密着した健康・安全・安心に関する試験検査や調査研究を実施しています。また、これらの業務で得られた感染症、保健、食品衛生、生活環境衛生、薬事に関連する情報を、WEBページなどで公開しています。

▶ そのうち感染症に係る内容は、感染症・疫学情報課に設置された横浜市感染症情報センターが発信する情報です。本センターは市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、市民や医療機関へ提供することで、感染症対策に役立てています。

主な結果 ▶ **手足口病**の市全体の定点あたりの患者報告数は、6月下旬(第26週)に7.22となり、流行警報発令基準値(5.00)を上回りました。8月下旬(第34週)以降再び増加に転じ、10月中は**10.00前後と高い値で推移**しています。

横浜市衛生研究所の紹介動画 公開中 !!

▶ 職員のキャラクター **エイちゃん** と **ケンくん** が、**普段見ることができない研究所の内部をご案内**します。ぜひ、ご覧ください！



Kenくん



ようこそ横浜市衛生研究所へ

検索



<https://www.youtube.com/watch?v=dWTuDPSBj8>